

(5) 第2回ワークショップ ～跡地活用プランをつくろう！～

【日時】

2024年12月14日（土）
10:00～12:00

【会場】

町田第三小学校ランチルーム

【参加者】

15名

【プログラム】

○はじめに、本日のスケジュール

○説明

- ・第1回ワークショップの振り返り
- ・第2回ワークショップの参考事例紹介、避難施設について、市民アンケート結果 等
- ・本日のワークショップの進め方

○グループごとのワークショップ

テーマ1：町三小跡地の活用プランをつくろう！

テーマ2：避難施設になった時のことを考えよう！

○グループごとの発表

○集合写真

■説明（参考事例紹介、市民アンケート結果、避難施設についてなど）

町田市からグループワークに参考になる事例の紹介をしました。

また、8月に実施した「町田第三小学校跡地活用等に関する市民アンケート」の速報や、学校跡地でも引き継ぐ避難施設機能の考え方についても確認をしました。



説明の様子

■グループワーク

全体説明後、前回と同様に3つの組に分かれてグループワークを行いました。町田第三小学校の敷地図の上に、前回出た「町三小跡地で将来やってみたいこと」を具体的に配置していきました。必要な場所や広さを考えながら、やってみたいことのイメージ写真や図面を地図に貼りながら、想像を膨らませ、活用プラン（案）を作成しました。

活用プラン（案）は、平常時の使い方をメインにしながら、災害時にその場所を避難施設としてどう使うか、「平常時」と「災害時」の2つの視点でグループワークを進めました。



熱のこもったグループワーク

■検討結果

各組の活用プラン（案）で、どの組でも共通していたことは、南側の敷地の高い場所を芝生広場とし、その西側に建物を配置していたこと。芝生の広場は、いろんな人がいろんなことに使うことができ、お祭りなど地域の活動の場としても活用できる場所として各組が提案していました。配置する建物の大きさにはグループごとに差がありましたが、建物内にみんなでシェアできるキッチンを備えるなど、地域のコミュニティを育む場にしたいという意見は共通していました。

北側の敷地の低い場所の使い方は、組ごとに様々なアイデアが盛り込まれたプランになりました。



意見を出し合いながら活用プラン（案）を整理

1組

この場所が、ここでできる体験が、地域・世代を『つなぐ』

◇全体の配置

北側の敷地の低い場所では隣を流れる恩田川を活かし、「水や自然とのふれあいができる場所」にして、南側の敷地の高い場所では、子どもや大人が使える「遊具・健康器具」の設置や、様々な使い方ができる「芝生広場」、「コミュニティ施設」を設ける提案です。



◇各ゾーンのイメージ

・水や自然とのふれあいができる場所 ～恩田川と斜面地を活かす～

北側の敷地の低い場所で、ビオトープや釣り堀を設けます。環境を育み、いつの日か、ホタルが生息したらいいなという夢も語られました。そのほかに、みんなで育てる畑を設け、斜面ではタケノコを育てます。ここで採れた食物をみんなで調理して食べたり、子ども食堂でふるまったりしたいという想いも語られました。

・遊具・健康器具ゾーン ～隣接する日向台公園も活用～

北側の敷地の低い場所と南側の敷地の高い場所の間にある斜面を活かしたアスレチック遊具や子どもに人気の複合遊具、高低差を活かし、恩田川を越えて日向台北公園までつながるジャンボ滑り台を設置します。1組に参加している小学生メンバーからも、「楽しい場所になりそう！」というお墨付きもいただきました。また、子どもだけでなく多世代が使える大人向けの健康器具も置いて、多くの世代をつなぐ場所にします。

・芝生広場 ～思い思いの使い方を～

南側の敷地の高い場所は、特定の競技をするためのものではなく、思い思いの使い方ができる広場に、時間によってはハイハイ歩きの赤ちゃんが使えたり、小中学生のボール遊びや少年野球ができるようにしたり、地域のお祭りなどの様々なイベントや手持ち花火もできる場所にします。

・コミュニティ施設 ～歴史をつなぐ場所～

正門を入れて左側に整備し、いろいろな使い方ができる場所にします。話し合いや趣味の練習などができる場所のほか、調理場やカフェスペースがあって、みんなで調理して食べたり、子ども食堂を開いたりできるようにします。ほかにも、展示スペースを設けて、町三小の窓ガラスや床材を展示・活用するほか、趣味の展示ができるようにし、町三小の歴史や地域をつなぐ場所にもしたいというもののや、外遊びで汚れた手足を洗える場所も設置したいという意見もありました。

さらに、敷地内を周遊できるウッドチップの散策路を設け、いまある各出入口から敷地を通り抜けることができるようにします。周辺にお住いのみなさんにとっても行き来が便利になり、この場所が地域をつなぐ場所になってほしいという思いが込められた提案です。

◇災害時への対策

災害に備え、浸水する可能性のある北側の敷地の低い場所には建物は設けず、マンホールトイレも南側の敷地の高い場所に整備します。コミュニティ施設内には災害備蓄倉庫を設けます。災害時には、各部屋を避難場所として活用しますが、もし避難者が多い場合には、芝生広場をテント避難場所として活用します。また、正門近くには、駐車場とともに地域の方の給水場所となるように整備する提案です。



一部の画像は、次のサイトからの画像を用いています。川崎市子ども夢パークHP: <https://www.gunepark.net/> 町三小地域活動サポートオフィスHP: <https://mitchide-support.org/>

2組

みんな集まれ！子ども・障がい者・老人みんなが楽しめる広場

◇全体の配置

南側の敷地の高い場所には「芝生のひろば」、北側の敷地の低い場所には「土のひろば」を設ける、2つのひろばを中心にした地形の特徴を活かした計画になりました。そして、ひろばに挟まれた斜面には遊具を設置し、正門近くには避難施設を兼ねた「みんなが多目的に使える建物」を配置する提案です。



◇各ゾーンのイメージ

・芝生のひろば ～地域の人が集まれる場所～

南側の敷地が高い場所は、芝生に寝転がってお昼寝や星空観察ができる、ゆったりとした時間が過ごせるひろばです。「盆おどり」「お祭り」「花火」などの地域の行事やイベントもできる地域の人が集まれる場所にしていきます。北側の斜面に近いところには、健康器具やベンチを設けて、高齢者がくつろげる場所も用意しました。近くには季節を彩る花が咲く花だんを設置します。大人も子どもも日向ぼっこをしながら会話に花を咲かせている姿が目に見えます。

・土のひろば ～さまざまな活動ができる場所～

北側の敷地が低い場所は、キャッチボールなどの「ボール遊び」ができる活動的な場所にします。恩田川の水を活かして、ビオトープをつくり、地域の人々が水に親しむ場所になるように考えました。

・2つのひろばに挟まれた斜面 ～タケノコ！ハイジのブランコ！～

今ある竹林を活かして「タケノコ掘り」ができる場所をつくります。また、「コースター」「ぼうけん遊び場」「アスレチック」「ハイジのブランコ」などを用意。地形を活かして子どもたちが遊べる場所にします。空に飛び出しそうになるくらい大きなブランコづくりは、グループみんなが想像して盛り上がりました。

・正門近くに建物を配置 ～地域のつながり、支え合いの場所～

誰でも使えるキッチンを設置して、みんなで食事をしたり、子ども食堂を開いたり、子育ての支援もできるように工夫します。幼い子どもからお父さんお母さん、高齢者まで、みんなが多目的に使える地域のつながりや支えあいができる場所にしたいという意見が出ました。また、建物の一部に展望台を設置し、そこからどんな景色が見られるのかみんなで想像をふくらませました。

◇災害時への対策

災害時には正門近くに整備する建物を避難施設として活用します。そのため、建物近くに防災倉庫、マンホールトイレなど、避難時に必要になるもの一式を設置します。避難者が多い場合は、芝生のひろばをテント避難の場所としても活用します。高台にあることで水害時にも使用できる安全性と、非常時にも不便なく柔軟に使うことができる効率性を考えた提案になりました。



3組

自然に囲まれた環境を活かし、誰もが思い思いに過ごせる広場

◇全体の配置

敷地の高低差を活かし、北側の敷地の低い場所は、万が一浸水しても被害が少ない使い方として「運動などができる広場」、南側の敷地の高い場所は、広く見晴らしのよい空間なので「自由に使える芝生広場」を計画しました。そして、その間にある斜面地は「自然地形を活かした遊び場」、敷地の南西側にいろいろな使い方ができる「建物」、東側に「高齢者もくつろげる空間」を配置する提案です。



◇各ゾーンのイメージ

・運動などができる広場 ～浸水による被害が少ない使い方～

バスケットゴールを設置し子ども達が自由に「バスケットボールを楽しめる場所」や、既設のアスファルト坂道などを利用すれば「スケートボード広場」にもなります。そして、芝生を活用すれば「ドッグラン」にもできると、アイデアが膨らみました。

・自由に使える芝生広場 ～大空間であることを活かす～

大空間であることを活かして、遊びに来た人が思い思いに利用できる場所になるようにと考えました。日常的には子ども達がサッカーや野球などのボール遊びができる空間や、町内会のお祭りなどのイベントに利用できるようにします。3組では、「地域の伝統的なお祭りを今後も継承していきたい！」と話が盛り上がりました。

・自然地形を活かした遊び場 ～こころ休まる場所～

広場の間にある斜面地には子ども達が大好きなすべり台やターザンロープなどを設えて、冒険遊び場のような遊びができる場所にします。また、本町田の色とりどりの花を植えて段々畑のような「段々花壇」にして、心休まる場所にもしていきたいという意見も挙げられていました。

・南西側に建物を配置 ～仕切りを利用して柔軟に広さを調整できる～

敷地の南西側に建物を配置します。室内を小さく仕切れるようにして「みんなの活動の場」、民間事業者による「個食配布と地域食堂の運営」、「子どもも使えるキッチン」などにします。仕切りを外せば、「みんなで集まれる場所」としても使用できます。また、「登れる屋上」にして、本町田地域を一望できる展望スポットにしたいと夢が広がっていました。

・高齢者もくつろげる空間 ～ゆったりと過ごせる場所～

敷地の東側には樹林地が隣接しており、夏も涼しい場所なので、砂地にして「ゲートボール場」を整備し、その側にベンチや健康器具を置いて、高齢者の方などがゆったりと過ごせる場所としました。同じように敷地のいろいろなところにベンチやフリーWi-Fiを設置し、高齢者も子どももみんながくつろげる場所をつくりたいという意見も挙げられていました。

◇災害時への対策

災害時には南西側に整備する建物を避難施設として利用します。物資を配る場所やキッチンを設置し炊出しの場所にするなど、避難機能の中核を担う場所になります。また、防災倉庫を建物内に配置し、マンホールトイレを建物の近くに移動させます。建物の隣の芝生広場には、避難者用テントを張る提案です。



一部の画像は、次のWebサイトの画像を引用しています。中野区 HP: <https://www.city.nakanishi.lg.jp/> 町田市地域活動サポートオフィス HP: <https://machida-support.or.jp/> 自然遊びの森協会 HP: <https://bosken-asodaiha.org>